

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 24 年 3 月 8 日 (2012.3.8)

【公表番号】特表 2011-510077 (P2011-510077A)

【公表日】平成 23 年 3 月 31 日 (2011.3.31)

【年通号数】公開・登録公報 2011-013

【出願番号】特願 2010-544347 (P2010-544347)

【国際特許分類】

A 6 1 K 31/675 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 6 1 P 31/20 (2006.01)

A 6 1 P 31/18 (2006.01)

A 6 1 K 9/20 (2006.01)

A 6 1 K 9/02 (2006.01)

A 6 1 K 9/06 (2006.01)

A 6 1 K 9/10 (2006.01)

A 6 1 K 9/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 31/675

A 6 1 K 45/00

A 6 1 P 43/00 1 2 1

A 6 1 P 31/20

A 6 1 P 31/18

A 6 1 K 9/20

A 6 1 K 9/02

A 6 1 K 9/06

A 6 1 K 9/10

A 6 1 K 9/00

【手続補正書】

【提出日】平成 24 年 1 月 18 日 (2012.1.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

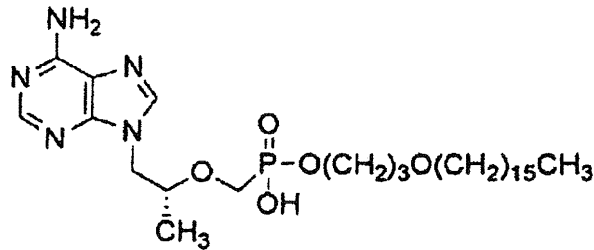
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

被検体の、ヒト免疫不全ウイルス (H I V) および / または B 型肝炎ウイルス (H B V)
) 感染を治療するための医薬組成物であって、
 (a) 以下の式

【化 1】



で示される第 1 の抗ウイルス化合物、もしくはその製薬上許容される塩と、

(b) 少なくとも 1 種類のさらなる抗ウイルス活性薬と、

(c) 製薬上許容されるキャリアと

を含む医薬組成物。

【請求項 2】

前記 1 種類以上のさらなる抗ウイルス活性薬が、HIV - プロテアーゼ阻害剤、ヌクレオシド逆転写酵素阻害剤、非ヌクレオシド逆転写酵素阻害剤、インテグラーゼ阻害剤、エントリー阻害剤、融合阻害剤、成熟阻害剤、およびそれらの組み合わせからなる群から選択される、請求項 1 に記載の医薬組成物。

【請求項 3】

前記 1 種類以上のさらなる抗ウイルス活性薬が、ラミブジン、アバカビル、ジドブジン、スタブジン、ザルシタビン、ジダノシン、エムトリシタビン、テノホビル、デラビルジン、エファビレンツ、エトラビリン、ネビラピン、アンブレナビル、アタザナビル、ダルナビル、インジナビル、ロピナビル、ネルフィナビル、リトナビル、サキナビル、チプラナビル、マラビロク、エンフビルチド、およびラルテグラビルからなる群から選択される、請求項 1 または 2 に記載の医薬組成物。

【請求項 4】

前記被検体が、前記 HIV または HBV 感染に対する抗ウイルス活性薬をこれまで投与されておらず、

前記抗ウイルス化合物が、前記 HIV および / または HBV 感染を治療し、かつ、前記被検体において前記抗ウイルス化合物に対する耐性の発生を少なくとも実質的に阻害するために十分な量で前記被検体に投与される、請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載の医薬組成物。

【請求項 5】

前記被検体が、HIV または HBV 感染のための少なくとも 1 種類のその他の抗ウイルス化合物の前記被検体への事前投与に应答して、前記少なくとも 1 種類のその他の抗ウイルス化合物に対する耐性または毒性应答を生じており、

前記抗ウイルス化合物が、前記被検体において前記抗ウイルス化合物に対する耐性のさらなる発生を少なくとも実質的に阻害するために十分な量で前記被検体に投与される、請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載の医薬組成物。

【請求項 6】

前記感染が、前記被検体の特権細胞区画もしくは特権組織区画にあり、

前記抗ウイルス化合物が、前記 HIV および / または HBV 感染を治療し、かつ、前記被検体において抗ウイルス化合物に対する耐性の発生を少なくとも実質的に阻害するために十分な量で前記被検体に投与され、かつ 1 種類以上のさらなる抗ウイルス活性薬と前記抗ウイルス化合物とが同時に前記被検体に投与される、請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載の医薬組成物。

【請求項 7】

前記被検体が免疫不全症である、請求項 4 ~ 6 のいずれか一項に記載の医薬組成物。

【請求項 8】

前記ウイルスが HBV である、請求項 4 ~ 6 のいずれか一項に記載の医薬組成物。

【請求項 9】

前記被験体が H B V と H I V との両方に感染し、前記第 1 の抗ウイルス化合物が前記 H B V と H I V との両方を治療するために有効な量で投与される、請求項 4 ～ 6 のいずれか一項に記載の医薬組成物。

【請求項 10】

前記被験体が子宮内にあり、前記第 1 の抗ウイルス化合物が、前記被験体を子宮内に保有する母親に投与される、請求項 4 ～ 6 のいずれか一項に記載の医薬組成物。

【請求項 11】

前記特権区画が、前記ウイルスが *in vivo* で透過し、前記抗ウイルス化合物が前記ウイルスの不在下では *in vivo* で効率的に透過せず、かつ前記抗ウイルス化合物が前記ウイルスに結合する場合に前記抗ウイルス化合物が *in vivo* で前記ウイルスにより運ばれる細胞または組織の区画である、請求項 6 に記載の医薬組成物。

【請求項 12】

前記特権区画が、脳、リンパ組織、および精巣からなる群から選択される組織区画である、請求項 6 に記載の医薬組成物。

【請求項 13】

前記特権区画が、樹状細胞、ミクログリア、単球 / マクロファージ、それらの組み合わせ、および脂質にコンジュゲートされていない抗ウイルス化合物で効果なく治療されたその他の細胞種からなる群から選択される細胞区画である、請求項 6 に記載の医薬組成物。